

やるぞ！二期生

公立一貫校・歴代高付属中の初年度

<7>

25日から3日間の日程で「能登臨海実習」として石川県や富山県を訪れる歴代高付属中の1年生。現地で実りある体験を積めるように、80人の生徒は担当別に分かれた五つのグループごとに準備を進めている。

県内の市町村立中学 船「海王丸」のほか、校が1年生の宿泊行事として春に県内でキャンプや登山などを行うケースが実習授業では多いが、付属中では風土や歴史が異なる臨海地域について学び、自分たちが暮らす長野県や千曲市の良さを再発見する目的で能登臨海実習を導入した。

シンベエザメがいる「のどしま水族館」、海の貴婦人と呼ばれる帆

のうち、事前学習や写真撮影場所の選定を担当する「学習・写真班」の生徒は、夏休みの間に能登の歴史や風

能登臨海実習を事前準備

友達の輪広げる機会



学年集会で自分たちの考えたスローガンを発表する生徒たち

が賄っている」「YK Kでは主にファスニング事業をしており、その事業活動は世界71カ文化について調べた武

かり伝わればうれし
い」と話す。

本年度の一大イベントを心待ちにする生徒も。1年A組の下平優菜さんは「海があるとないとでは食事の文化も違うはず。いろいろと比べて勉強したい」と意欲的。同じクラス宮下美羽さんは「あまり話したことがない人がいるので、これを機に交流の輪を広げたい」とクラスメートとの交流を楽しみにする。担当の新谷逸也教諭は「普段の生活とは違う環境で過ごすことで、友達の今まで知らなかった面がいろいろと見えてくるはず。入学から半年経過したこの時期に、より深い人間関係を築いてほしい」と期待している。

(随時掲載します)

土、見学場所の内容を調べ、新聞にまとめた。「原子力発電が停止になる前でも、総発電量の約70%を火力発電

国・地域に及んでい田和久君は「調べること

の壁に張り出された新この地域の歴史の深さを感じた。新聞を通じ

り組んだ事前学習の成てほかの班の皆にしっ